

平成16年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		財団法人 武蔵野スポーツ振興事業団						
①	指標名	スポーツ教室開催回数			目標値	150回	実績値	160回
	過去の実績	平成13年度	平成14年度	平成15年度	達成率	106.7%	達成状況	未実施・未達成・ 達成
	(単位:回)	136	152	155				
事業内容	<p>※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>①参加者の増加を図るため、市報の掲載、ホームページ、情報誌、チラシの配布等により積極的なPRに努めた。 ②小・中学生向けの教室については、チラシを作成し、小中学校を通して全児童・生徒に配布し、参加者の増加に努めた。 ③大人向けの教室については、終了後アンケート調査を実施し、その結果を事業運営に生かすことで、市民満足の向上に努めた。 ④ジュニアテニスは例年好評のため4教室増、またヨガも人気があるため3教室新規事業として開催、その他日本泳法1、エアロビクス1、ヘルシーウォーキング1、計10教室増加した。</p>							
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>○教室の開催回数については目標値をクリアしたが、すべての教室が定員の7割を超えたわけではないので、今後もPRに努め、参加者の増加を図る。</p>							
二次評価	<p>●目標値は前年度比5回減の150回で、これは事業の見直しにより人気のないものは実施回数を減らすということが設定理由であった。しかし実績値は160回で前年度比5回増である。教室の開催回数が増えたということは、結果として市民サービスの向上につながったと判断し、目標を達成したと評価した。</p> <p>●しかし、指標の目標値としては増減の有効性を判断しにくい面があるので、教室の参加率などの指標に変更するべきと考える。</p> <p>●また、武道系の教室などには、応募者が定員に満たないものもあることから、人気のない教室の見直しや更なる広報の充実にも努め参加者の増加を図るべきである。</p>							
②	指標名	ワンデー・レッスン参加者数			目標値	32,500人	実績値	30,971人
	過去の実績	平成13年度	平成14年度	平成15年度	達成率	95.3%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:人)	28,959	30,508	31,873				
事業内容	<p>※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>①スポーツ振興の観点から、幅広く市民が参加できる種目を実施し、市民のニーズに対応してきた。 ②事業団広報誌等（ホームページ、Do Sports、チラシ等）でPRし、参加者の増加に努めた。</p>							
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>○委託会社の事情で、人気の高かったエアロピクスの講師を、平成16年10月に変更したため、その後の参加者が急激に減少（前年比△2,300人）した。今後はこのようなことがないように取り組み、講師陣の充実を図る。</p>							
二次評価	<p>●ワンデーレッスンは事前の申込が必要なく、1回400円（市民カード所有者は半額）で気軽に参加できるスポーツ教室である。</p> <p>●ここ数年増加してきた参加者数が上記一次評価にあるように一講師の変更で減少となり、目標を達成できなかった。ただし、種目によっては、「のんびりヨガ」のように、150名の定員を超えるほどの参加者を得た。</p> <p>●スポーツの裾野をいっそう広げるため、講師の人選に最大限留意しつつ、人気のある種目のみならず、競技人口の少ないものや新しい種目にも焦点を当てながら、参加者増に努めることが大切である。</p>							
③	指標名	市民向け事業実施回数			目標値	45回	実績値	51回
	過去の実績	平成13年度	平成14年度	平成15年度	達成率	113.3%	達成状況	未実施・未達成・ 達成
	(単位:回)	55	58	46				
事業内容	<p>※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>①自然クラブ30周年を記念して、世界の昆虫展を大規模に展開したほか、ウィンタースポーツやキャンプカウンセラーの育成を充実した。 ②事業終了にあたり、アンケートを実施し、結果を事業運営に生かすことで、市民満足の向上に努めた。 ③市民から要望の多かった名山登山の増大や、子ども対策事業の想定外の応募に応えるため、内部努力により事業全体の経費を極力抑制し、実施した。（赤城山・常念岳・夏の涼ハイク・ジュニアスノーボード・山の自然学2・天城山縦走）</p>							
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>○当初事業に追加をした事業は、初めて試みる事業のほか事業地の変更等も組み入れたため、実施にあたっては参加者から概ね好評をいただいた。 ○今後も参加者あつての事業であることを肝に銘じ、安全かつ有意義な事業を展開していきたい。</p>							
二次評価	<p>●目標値は、前年度実績で人気がないものを1減らす45回であった。しかし、低山ハイク等新規事業を企画実施したことにより、実績値は51回で前年度比5回増であった。</p> <p>●実施回数が増えたということは、結果として市民サービスの向上につながったと判断し、目標を達成したと評価した。</p> <p>●しかし、キャンプインストラクター・カウンセラーの講習会など応募者が定員に満たないものは、更なる広報の充実にも努め参加者の増加を図るべきである。</p>							

平成16年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		財団法人 武蔵野スポーツ振興事業団						
②	指標名	自主事業収入			目標値	34,416千円	実績値	34,794千円
	過去の実績	平成13年度	平成14年度	平成15年度	達成率	101.1%	達成状況	未実施・未達成・ 達成
	(単位:千円)	24,031	28,816	32,314				
	取組内容	※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①参加者の増加を図るため、市報の掲載、ホームページ、情報誌、チラシの配布等により積極的にPRに努めた。 ②小・中学生向けの教室については、チラシを作成し、小中学校を通して全児童・生徒に配布し、参加者の増加に努めた。 ③大人向けの教室については、終了後アンケート調査を実施し、その結果を事業運営に生かすことで、市民満足の向上に努めた。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○自主事業収入は目標値を達成したものの、スポーツ教室は前年度と比較すると430人の増、野外活動事業は「世界の昆虫展」を除くと81人の減となっている。今後も積極的にPRに努め参加者の増加及び増収を図る。また、16年度はハバロフスク冒険キャンプが実施され、その参加料(約146万円)が増収の大きな要因であった。						
二次評価	●前記一次評価の通り、ハバロフスク冒険キャンプの参加料が目標値達成に貢献した。 ●市民の多様なニーズに応えながらスポーツの振興を図り、豊かな市民生活に寄与するという事業団の設立目的からも、収益のあがる事業だけを実施すればいいというわけにはいかない事情もあるが、今後もHPなどを通して積極的な広報活動を行い、スポーツ教室等の参加者増や施設の個人利用者増に努めるべきである。 ●また、トレーニング室など高価な機器の取り替えについては、更新計画を作成するべきである。							
③	指標名	執行体制の簡素・効率化(職員の削減)			目標値	1人減	実績値	1人減
	過去の実績	平成13年度	平成14年度	平成15年度	達成率	100.0%	達成状況	未実施・未達成・ 達成
	(単位:人) 正規職員数(嘱託職員数)	23(6)	23(6)	23(7)				
	取組内容	※16年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ○平成16年4月ハバロフスク協会事務局長が派遣解除となり、その後任に嘱託職員を配置した。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ○当初の予定どおり目標を達成した。今後も嘱託職員等の活用により、固有職員及び派遣職員の定数の見直しを図り、組織の簡素・効率化に努める。						
二次評価	●派遣職員の引き上げ後は嘱託職員で対応し、職員の1名削減を達成した。 ●固有職員については、勤続15年を超える中堅も数名いることから、係長昇任のための規準等が制定され、17年度から係長職が1名誕生した。主任クラスの民間サービス業への派遣を実施するなど職員の人材育成に努め、派遣職員の引き上げにも対応できる体制をつくりつつある。 ●農水省食糧倉庫跡地に建てられる新公共施設の管理運営には指定管理者制度が予定され、当事業団を改組し対応することとなっている。職種等の広がりや職員増など課題を整理し、事前に十分準備しておくことが肝要である。							
人事	組織							
	組織							